

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鎚木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

目標設定について ----- 蔭山 徳人 もう一つの「臼井」 ----- 犬丸 俊博  
「はじめて」にチャレンジ --- 東野 正明 こどものちから ----- 岩船 茂雄

## 異なる時空

田島 誠

ある日、孫に「ツーちゃん  
はいつも3歳なのだ」と悩み  
を打ち明けられた。近頃孫は、  
「ツーちゃんが、自分で」と  
自己主張をする。「われ思う  
故にわれあり」とデカルトと  
同じ自己の存在を自覚したの  
だ。

ところが、気が付くとママ  
から、「ツーちゃんは3歳だ  
から出来るでしょ。3歳なら  
いい子にして」といつも怒ら  
れる。いたずらやママの言う  
ことを聞かないからではなく、  
3歳だから怒られると思っ  
ているのだ。そしていたずらは  
続き、来る日も来る日も3歳  
が続く。自我に目覚めたばか  
りの孫の3歳の時間は果てし  
なく長い。可哀想に悩みをよ  
く打ち明けてくれた。「よし、  
力になるよ」と孫を抱きしめ  
た。

佐倉では立夏の頃田植えが  
行われる。初夏の証に緑が濃  
くなり、早苗が風に揺れる。  
今年も半年近くが過ぎたのだ。  
毎年、時の歩みの早いことよ  
今、孫は時間を長く、私は  
短く感じている。なぜだろう。

先日、重力波を観測できた  
との新聞記事を読んだ。巨大  
なブラックホールの影響で生  
じる重力の「ひずみ」は太陽  
と地球間の距離で、僅か原子  
一個分程度であるという。そ  
んな僅少の差異を測定できる  
技術がどんなに大変なもので  
あるかは理解できる。重力の  
力は、自然界の力の中ではと  
ても小さいそうだ。このため、  
重力の多くは他の次元に漏れ  
てはいないかと疑われている。  
そして、時間と二つの空間  
(3次元)で存在する我々の  
世界(4次元時空というそう

だ)の他に別な次元が在るの  
ではと推測する説がある。  
また、宇宙ステーションに  
1年間滞在し、帰還した宇宙  
飛行士の時間は地上人に比べ  
1秒違ったとのテレビを見た。  
相対性理論では時の経過は一  
様でないことが知られている。  
そこで、人によって時間の  
感じ方に差異があるのは、意  
識や経験で異なるのではなく、  
各自は異なる時空に住んでい  
るからではないかと疑ってし  
まう。観測できないけれど。  
だから時間の経過そのものが  
違うのだと。SF小説のよう  
な話になった。しかし、重力  
や時空の概念をよく理解でき  
ない私は、高度な理論もSF  
の世界も区別できずに空想が  
膨らむ。

望むらくは、孫には、可愛  
い悩みの時が長く続くことを  
願い、私の時空では、時の流  
れが少しゆったりとなること  
を願う。が、田圃の蛙は素知  
らぬげに謳っている。

(編集委員)

## 目標設定について

ある統計によると、リタイアしてその後の人生に目標を持っていない場合、リタイア時の年齢に関係なく18カ月（1年半）で死んでしまうというのである。目標がないということは、生きる意味がないので、死ぬ以外のだろう。

それでは、長生き自体が目標の場合は、どうだろうか。長生きの目的が何なのか不明のため、生きる意味がなくなり、この場合も死んでしまう。長生きをして何をするかが重要なのだ。

数年前に「高齢社」の創業者、上田会長にお目にかかった時の話であるが、定年退職すると毎日が日曜日とばかりに、最初はゴルフやマージャン、釣りに飲み会等々楽しく過ごすのだが、半年もしないうちに飽きて、家でゴロゴロしている、家族から煙たがられ、しだいに居心地が悪く

なり、最後には苦痛になってくるのである。つまり、趣味や娯楽は目標にはふさわしくない。

目標設定の正しい立て方は、次の条件が必要だ。

①現状の外に置くこと。

具体的道筋すらわからないもので周囲の人が止められない非常識なものがちよūdよい。

②心底本当にやりたいこと。

好きでやるのだから、疲れ知らずであり、とことん打ち込めるのだ。

③自分中心でないもの。

利己的に自分の欲求を満たすだけのものは幸せとは程遠く支持も得られない。なお、念のためだが、目標は人に話したり、人と比べたり、約束をするものではないことをお忘れなく。

（染井野 蔭山 徳人）

## もう一つの「白井」

20数年前、佐倉に転居して目にした「白井」の名、最初に思い浮かんだのは父の故郷として。次男であった父の実家は福岡県嘉穂郡碓井町（現嘉麻市）、鉄道駅は飯塚山田を結ぶ国鉄上山田線（廃線）の「白井」でした。

同沿線に多くの炭坑があり、白井駅には麻生鉱業吉隈炭坑（昭和44年閉山）や明治鉱業平山炭坑（後年閉山）の石炭積出専用線やホッパーという貯炭漕がありました。駅前には石炭の香りに満ち、遊技場、飲食店や銭湯の喧騒に子供心ながら人々の「熱気」を感じたものでした。そうそうNHKの朝ドラ「あさが来た」で登場したかつてのヤマ（潤野炭坑）は同じ郡内（現飯塚市）。

さて、父の実家へは同駅から20分位、町中を抜け、田んぼ道の行き着く所。

夜になると街灯から解放された夜空や小川のせせらぎ、水車の響き。毎年、父に連れられ過ごした数日、牛舎や従兄弟と遊んだ農業用水池や神社の思い出など。

父の仕事の関係で白井駅より高校通学したが、今では法事で両親や先祖の菩提寺（上白井）を訪れるだけの地となつてしまった。

線路は自動車道路へと替わり、駅跡はホームの名残のみ、そして「白井」は字名や施設名として残るだけの穏やかな町へ。

因みに「白井」常安は筑前国嘉麻郡馬見庄、碓井庄を併せ五百町を与えられた。総州白井を領していた常安は同名の地を筑前に得た奇遇を喜んでという『碓井町史』掲載の由来記から）

まさにこの白井が父の故郷であり、思い出の地。

（大崎台 犬丸 俊博）

## 「はじめて」にチャレンジ

「はじめてのおつかい」というテレビ番組がある。子供の初めてのお使いを追いかけた企画番組。親から頼まれた買物を様々なトラブルを乗り越え達成する無邪気な子供達。それは子供を心配する親心と相まって視聴者に笑いと涙と感動を与えてくれる。最近は孫の成長とオーバードラップし、見ては涙を流す。

「はじめて」にチャレンジ。それはどの年代でも勇気と努力が必要となる。会社人生を終え、社会的責任が無くなつた今、私は女房がダメと言わない限り「はじめて」にチャレンジし続けたいと思っている。

リタイアと同時に千葉県生涯高等学校の園芸科に入学。そこで知った気の合った仲間と多くの「はじめて」を経験した。

日常生活はもとより、3人

の友とアメリカはソルトレイクシティからレンタカーを借り、グランドサークルの国立公園6カ所を周りラスベガスへ。特に片道6車線もあるハイウェイとラスベガスの街中に車を運転する自分を見た。またロングステイの予行演習としてマレーシアはキャメロンに1週間滞在。ホテルのラウンジでコーヒーを飲みながら本を読んで過ごせない自分を見た。

そして佐倉市民カレッジに入り、2年生の「まちづくり」。そこで認知機能回復に効果がある「ふまねっと運動」を初めて体験した。これから「ふまねっと運動」が目的を共有した多くの仲間と共に多くの「はじめて」を体験させてくれるものと思っている。

自己主張  
言ってしまえば角が立つ  
ぐつと堪えて大人の付き合い  
残る人生面白おかしく！

(山王 東野 正明)

## 「子どものちから

先日の夕方のこと電話が鳴った。最近この時間帯はリサイクルショップとかリフォーム会社の営業が多いので少々不機嫌なトーンで出たところ「もしもしおじいちゃん、なんだよ。あのね、わたしの名前が新聞に出たよ」。「えーっ！」。

某新聞社主催の絵のこども県展で優秀作に選ばれ、「県立美術館で今日から日曜日までだよ」。「そうか、ぜったい見に行くよ」。

翌日家内と地図を頼りに久しぶりの千葉へ向かった。来館者は皆さん孫の絵見たさと思われるご年配の方達で結構賑わっていた。受付で一年生のブースを聞き少しワクワクしながら孫の絵を探す。何せ前半だけでも4千点以上もあるとのことだ。

だが、その絵はすぐに見つ

かった。まっ赤な消防車が画用紙から飛び出しそうに迫り満点に描かれており、欲目もあると思うが実に良い出来だった。

他の作品に目をやると、「とんぼ」も「かまきり」も「くじら」も「鳥」もみんな伸びのびと、大きな夢を感じさせる素晴らしいものばかりで技法も進み高学年の作品は「これを中学生が描いたの？」と正に舌を巻く出来栄えだ。

仲間に誘われ水彩画のサークルに入会して2年だが、「恐れ入りました」と同時に子ども達の無限の力を感じ、心温まる一日であった。

(中志津 岩船 茂雄)

## 5月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL: 043-485-1801 FAX: 043-485-1803

〒285-0025 佐倉市鐺木町 198-3

E-mail: chuo-public@city.sakura.lg.jp

URL: [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0\\_1.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/16-1-0-0-0_1.html)

『なかま』は佐倉市民カレッジの学生と卒業生で構成される編集委員が編集し、市民カレッジ情報コースの卒業生が文字入力を行っています。

### さくら道

私の故郷松江市は、松江城や宍道湖周辺が観光の目玉として整備され「水の都」と呼ばれる。松江の起源は江戸初期に初代藩主堀尾吉晴が湿地帯を埋め立て、その中心の亀田山に5年かけ築城した松江城と城下町にある。

松江城は、築城年が佐倉城と同年であると、最近発見された祈祷札から明らかになり、平成27年7月に65年ぶりに

国宝に指定された。松江城は黒色を基調とし望楼部と付櫓を白漆とした重厚壮大な佇まいだ。天守から市内の街並みや宍道湖が一望できる。城に近い堀端には黒板塀の武家屋敷、老松並木があり風情が感じられる。松江藩7代藩主松平治郷（不昧公・佐倉藩主堀田正愛の後妻幾千子の父）の茶の湯文化が今もなお引き継がれている。

（浦尾 秀雄）

### あとがき

佐倉市民カレッジで「子育て支援のボランティア」を知り、お役に立てればと思います。登録し活動に参加しています。

今年初めから学童保育所で出迎え、自宅に送ることになった女兒がいるのですが、お話がとも上手で学校や学童での出来事を始め、家族や友達とのことなど話してくれます。バレンタインデーの頃、友達との「友チョコ」のやり

とりの話をしていました。2月14日ママと妹と3人で我が家まで「チョコ」を届けてくれました。ママと一緒に作ったかわいい「手作りチョコ」です。思いがけないことで本当に嬉しく暖かい気持ちにしてくれました。これからも、ささやかなお手伝いができればと思っています。

こどもたちの未来のために多くの人がこの活動に参加してくれればと願っています。

（坂田 和孝）